タブレットで手軽に使える！

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学びのデジタルガイド

「深い学び」に
つながるヒントが
たくさん！

「見方・考え方」
を育む授業の
ポイントが分かる！

授業と日常を結び
付ける活動やお話
が満載！

兵庫県教育委員会

内容 Contents

本ガイドの使い方

資質・能力の三つの柱
主体的・対話的で深い学び

「質問調査」
クロス分析

小学校 国語

小学校 算数

小学校 理科

中学校 国語

中学校 数学

中学校 理科

中学校 英語

探究活動例

指導資料

本県では、全国学力・学習状況調査の結果を今後の指導に生かすため、学力向上実践推進委員会において、毎年、調査結果の分析や研究を行っています。その成果物として毎年冊子を作成し、「学力向上シンポジウム」において配付及び、その内容について周知するとともに、ＨＰ上に公開しています。

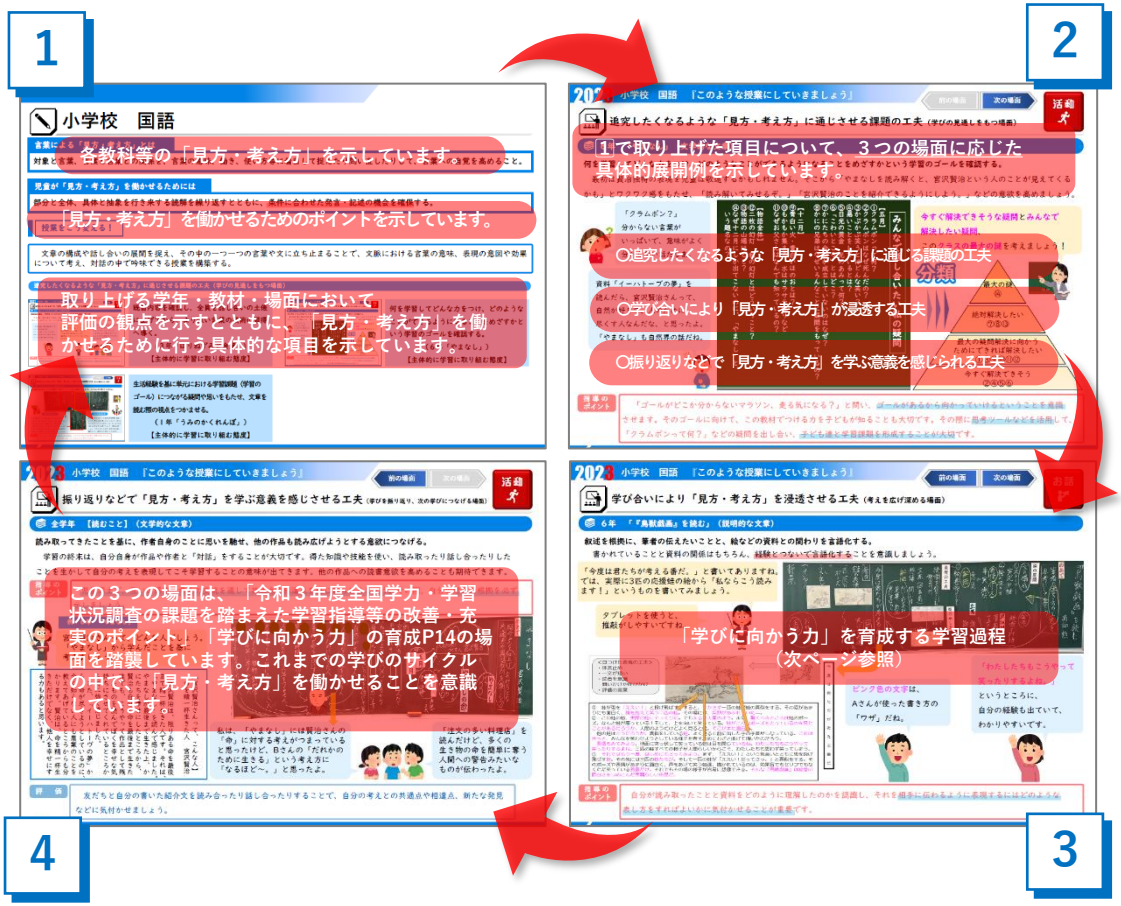
国では、ＧＩＧＡスクール構想により児童生徒に１人１台端末が整備されるとともに、デジタル教科書の試験的導入も進んでいます。授業中の児童生徒だけでなく、教員においても、教材研究や成績処理等様々な業務にＩＣＴ機器を活用する環境が整ってきています。これらの状況を鑑み、昨年度より紙面による冊子の配布を取りやめ、教員一人一人のタブレット等で気軽に見て活用していただくために、電子媒体での配布としました。

本ガイドを教材研究や授業に活用していただくことで、教員の指導方法を改善する一助となることを期待しています。

兵　庫　県　教　育　委　員　会

本ガイドの使い方 How to use

本事例は、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題が見られた設問を中心に課題を克服することをめざした授業改善例を示しています。
各校種・教科を４つの観点で構成しています。
特徴は、以下の２点です。
①「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」に焦点を当てています。
②授業と日常生活をつなぐ活動や視野を広げるお話などを事例にプラスしています。



「見方・考え方」

各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方です。「見方・考え方」は、新しい知識・技能を既に持っている知識・技能と結び付けながら深く理解し、社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの考えを形成したりするために重要なものです。今回は、いつもの授業に「子ども達が『見方・考え方』をどのように働かせるのか」という意識をプラスすることで、「見方・考え方」を軸としながら、幅広い授業改善の工夫ができるように事例を作成しています。この事例を参考にして、授業を行う学年及び単元における授業計画を作成してください。

「日常生活とつなぐ」

授業と日常生活をつなぐ活動や視野を広げるお話などを事例にプラスすることで、学習を家庭や地域へとつなげることができます。授業の進捗に応じた振り返りの時間や、家庭での自主学習など、探究につながる活用ができます。黄色の丸をクリックすることで、プラスの内容が表示されますのでご活用ください。

活動

家庭で確かめたり発展させたりできる活動を紹介しています。

お話

詳しく説明したり実社会で活用されたりしているお話を紹介しています。

リンク

詳しく学ぶことができるように関係するホームページを紹介しています。

子どもたちが主体的に学ぶための「３つの場面」について　１

「学びの見通しをもつ場面」のポイント

○**問いかけを工夫する**
　学習の初めの問いかけを工夫し、子どもたちに興味・関心をもたせることで、主体的な学びを促す。

○**目標を明確にする**
　学習の目標をもたせ、子どもたちが何を学び、達成すべきかを理解させる。

○**学習の全体像を共有する**
　スケジュールを確認し、学習の流れを把握できるようにさせる。

○**学習内容の関連に気付かせる**
　学習内容が他の学習や日常生活などとどのように関連しているか気付かせる。

○**学習途中で進行状況を確認させる**
　適切な場面で子どもたちが自分自身で学びの進捗を確認できるようにする。

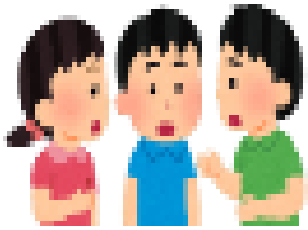
子どもたちが主体的に学ぶための「３つの場面」について　2

「考えを広げ深める場面」のポイント

○**学び合う活動を取り入れる**
多様な視点に気付かせるような協働的な学びを設定する。

○**複数の資料を提示する**
子どもたちが多面的・多角的に考えることができるようにする。

○**問いを深める**
子どもたちの思考を促す問いかけを行う。



○**「考えるための技法」を活用する**
身に付けさせたい力を明確にした上で、「考えるための技法」を意識的に活用させる。

○**日常生活との関連について考えさせる**
学習内容を日常生活や社会の問題と結び付け、課題の解決方法を考えさせる。

子どもたちが主体的に学ぶための「３つの場面」について　３

「学びを振り返り、次の学びにつなげる場面」のポイント

○**学びの進捗を確認させる**
学習のまとまりごとに、子どもたちが自分の学びの進捗を確認し、改善点などを明確にさせる。

○**振り返りの視点を示す**
「振り返りましょう」だけでなく、何を振り返らせるかを明確にする。

○**ポートフォリオを活用する**
学習の成果を整理することで、視覚的に確認させる。

○**メタ認知を促す**
子どもたちが自分の学び方などについて振り返る活動を取り入れ、学習方法を改善させる。

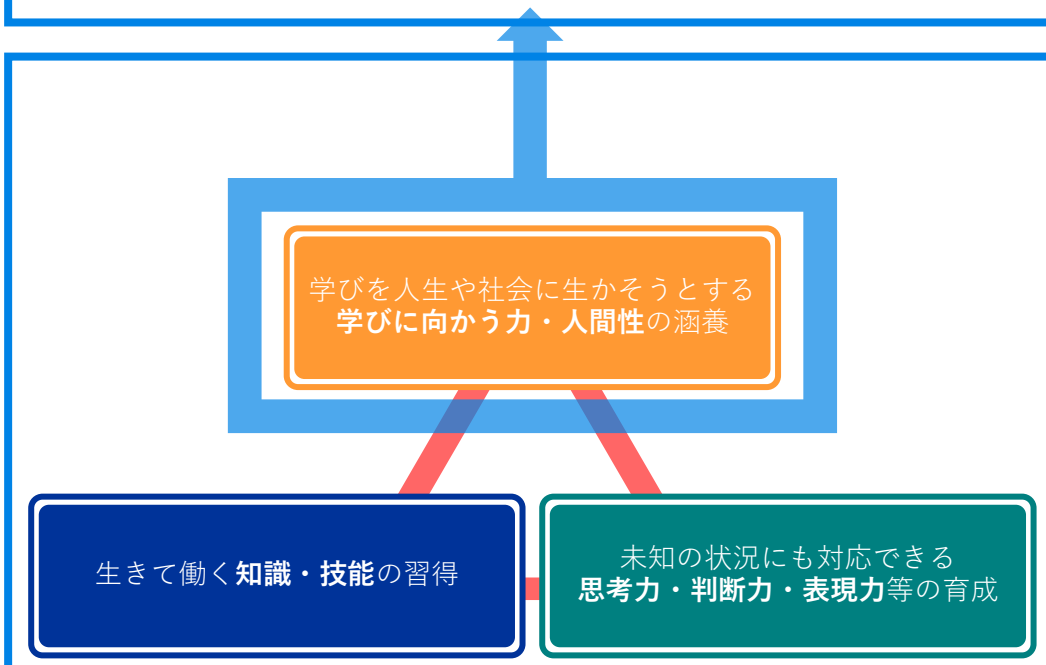
○**新たな目標を設定させる**
振り返りを基に、次の学習目標を設定させる。

資質・能力の三つの柱

資質・能力の三つの柱と、そのひとつである「学びに向かう力・人間性等」について

資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力、人間性等」は児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素です。

小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）第１章の第４の１の(1) 抜粋



平成２８年１２月中教審答申別添資料抜粋

具体的には主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等があり、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものです。また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれます。

学習指導要領においては、児童生徒が自主的に学ぶ態度を育み、学習意欲の向上に資する観点から、以下のとおり見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動について示しています。

児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

文部科学省HPより抜粋(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01500.html)

「学びに向かう力」と学習過程との関係

学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくこと。

「学びに向かう力・人間性等」について

「学びに向かう力・人間性等」

現行学習指導要領において育成をめざす資質・能力のうち、「学びに向かう力、人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等を育成することとされています。

「学びに向かう力」と学習過程との関係

学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくこです。

学びに向かう力を育成する学習過程〈イメージ〉

学びの見通しをもつ場面
【追究したくなるような課題の工夫等】

〇〇という課題について、解くんだな！今まで勉強したことって使えないかな？

自分の考えや見通しをもつ

考えを広げ深める場面
【学び合いにより自己の調整を図る工夫】

話し合ってみて、〇〇さんの解き方のよさが分かった！よし、解き方を変えて、もう一度解いてみるぞ！

考えを広めたり、深めたりする

学びを振り返り、次の学びにつなげる場面
【変容に気付き、学ぶ意義を感じられる工夫等】

最初考えていたことと比べて〇〇ということが分かったよ。次は今日の勉強を生かして△△してみたいな！

振り返りを生かして、学びの自覚、次への意欲をもつ

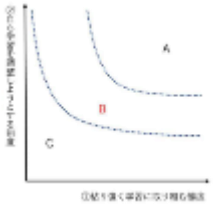
学習を家庭や地域とつなげる場面

勉強したことって家での生活ともつながっているんだな。次は、〇〇にも生かせるように頑張りたいな。

学んだことと生活との関連に気付き、学びを深める

※教科、領域、単元　等により家庭や地域とつなげる。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、右の２つの側面が相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられています。



①粘り強い取組を行おうとする側面

②自らの学習を調整しようとする側面

総合的な学習の時間の充実で学ぶ意義を

学んだことを活用する場面を設けることで、学ぶ意義を実感することができます。そのためには、「インタビューをする」「調べる」「情報を処理する」など、教科で身に付けた力を他の教科でも生かすといったカリキュラム・マネジメントの視点が大切です。その核となるのが総合的な学習の時間です。各教科で身に付けたことを活用して「考えるための技法」（小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総合的な学習の時間編　より）を取り入れながら探究する学習過程を設定するようにしましょう。

STEAM教育

STEM（Science、Technology、Engineering、Mathematics）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義（『STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進について』文部科学省初等中等教育局教育課程課」 より）しています。

県立高等学校では兵庫型STEAM教育として、異なる分野を総合的に学習し、文理を横断した複眼的視野により創造力や課題解決能力を高める教育をしています。義務教育段階においても、このような教育を見据えた実践を推進していくことが大切です。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」について　1

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

令和３年１月の中央教育審議会答申では、めざすべき「令和の日本型学校教育」の姿として「全ての子どもたちの可能性を引き出す、**個別最適な学び**と、**協働的な学び**の実現」が示され、これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用が必要不可欠**であるとされています。

授業づくりにあたっては，教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、**「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実**し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要です。

①「個別最適な学び」について

我が国ではこれまでも「個に応じた指導」が重視されており、教員が子どもの特性や学習進度に応じ、指導方法や教材を柔軟に提供・設定する「**指導の個別化**」や、興味や関心に応じた課題を設定し、子ども自身が学習を調整する機会を提供する「**学習の個性化**」が必要であるとされています。

これらを**学習者の視点から整理した概念が「個別最適な学び」**です。

このような学びになっていませんか？

⚠ 過度な推進による子どもの経験不足

ドリル学習だけに頼るあまり、他者と協働して学ぶ機会が減ってしまい、コミュニケーション能力を高めたり協力したりする経験が不足してしまう。

⚠ 形式の重視による教員の支援不足

自由に学ぶといった形式だけを重視するあまり、教員の支援が不足してしまい、子どもたちが困難に直面した際に適切な指導が受けられない。

「個別最適な学び」が
「孤立した学び」に
ならないようにするために
多様な他者と協働する等、
学びを工夫しましょう。

前の場面　次の場面

②「協働的な学び」について

「個別最適な学び」と「協働的な学び」について　2

②「協働的な学び」について

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ，子ども同士で，あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要です。「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）【概要】」から抜粋

このような学びになっていませんか？

⚠ 画一的な学習による考えの交流不足

子どもたちの意見やアイデアを取り入れるなどの機会がなく、毎回同じ形式のグループ学習にとどまったり、教員が一方的に授業を進めたりしてしまう。

⚠ 異学年間の交流の機会の不足

異なる学年の子ども同士で学ぶ機会が少なく、子どもが自らのこれまでの成長を振り返り、将来の展望を培うことが難しくなる。

「協働的な学び」において集団の中で個が埋没してしまうことがないように子ども１人１人のよい点や可能性を生かすなどの工夫をしましょう。

前の場面　次の場面

①「個別最適な学び」について

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげましょう。

内容 Contents

「質問調査」
クロス分析

「授業改善等」と
「将来の夢や目標を持っている」とのクロス

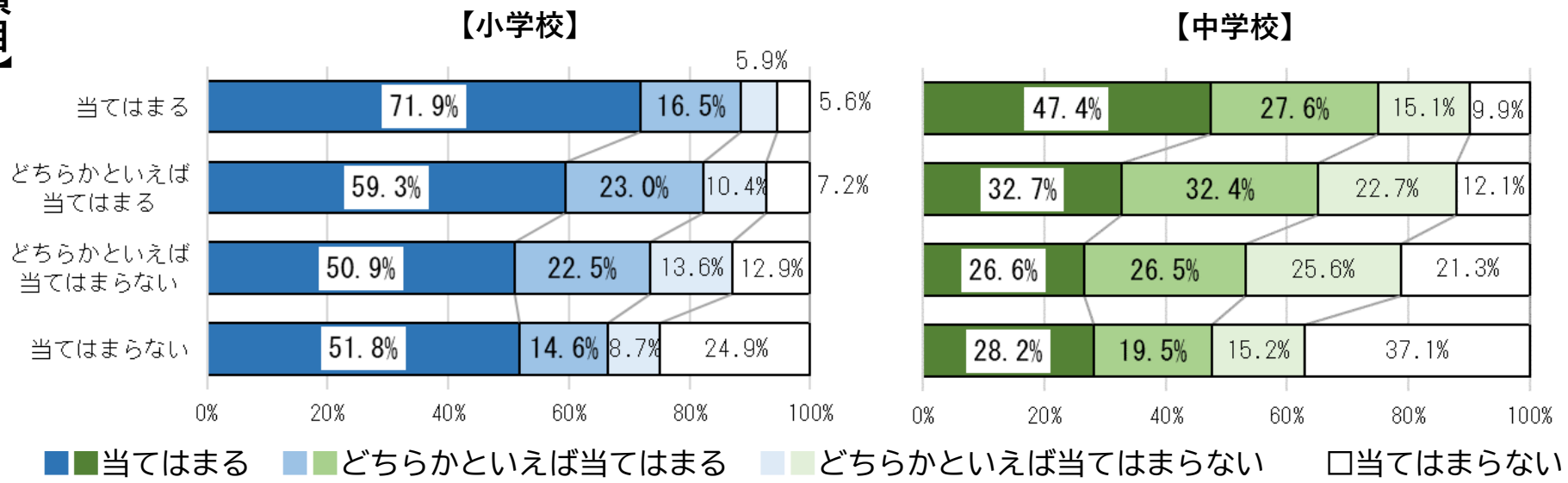
「主体的・対話的で深い学び」と
「ICT機器活用の効力感」とのクロス

「ICT機器活用の効力感」と
「児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等」とのクロス

自分で学び方を考え、工夫する

【縦項目】
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

【横項目】
将来の夢や目標を持っている

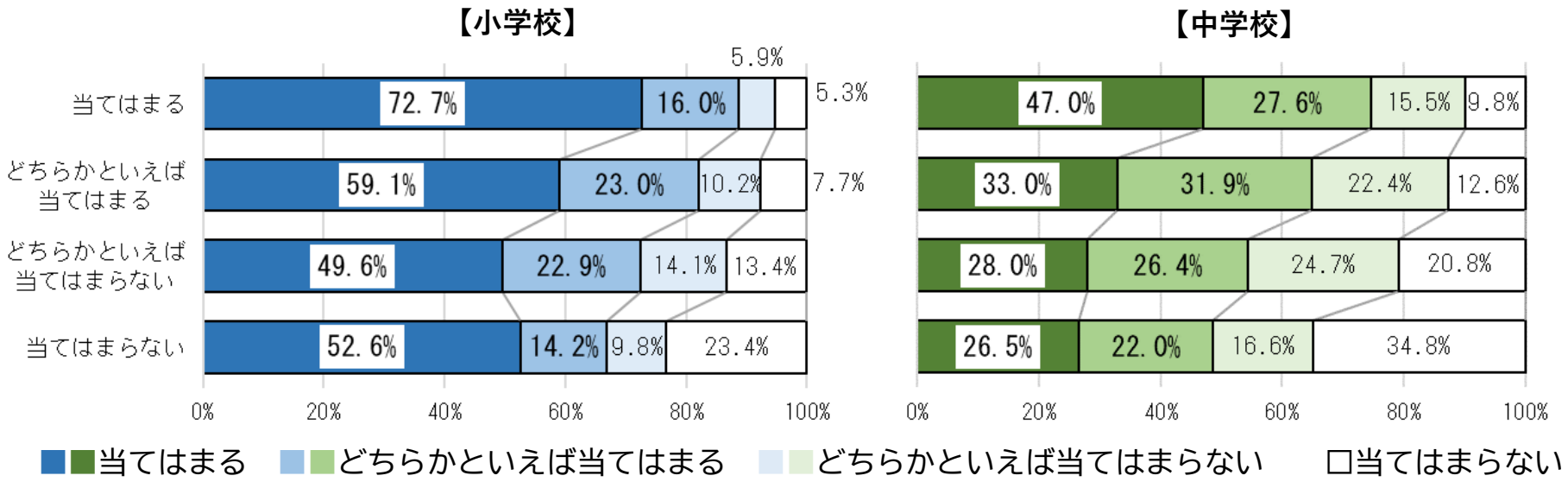


「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」との項目に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、「将来の夢や目標を持っている」との項目に肯定的回答をしています。

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む

【縦項目】
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

【横項目】
将来の夢や目標を持っている

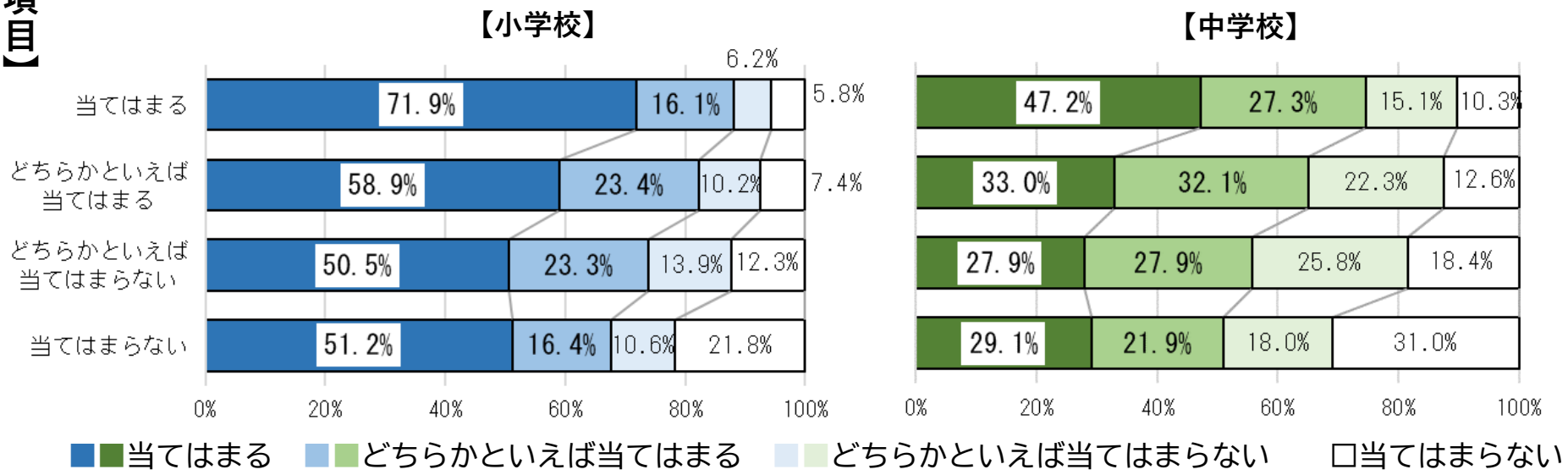


「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」との項目に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、「将来の夢や目標を持っている」との項目に肯定的回答をしています。

総合的な学習の時間で、課題を解決する過程を大切にする

【縦項目】
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

【横項目】
将来の夢や目標を持っている

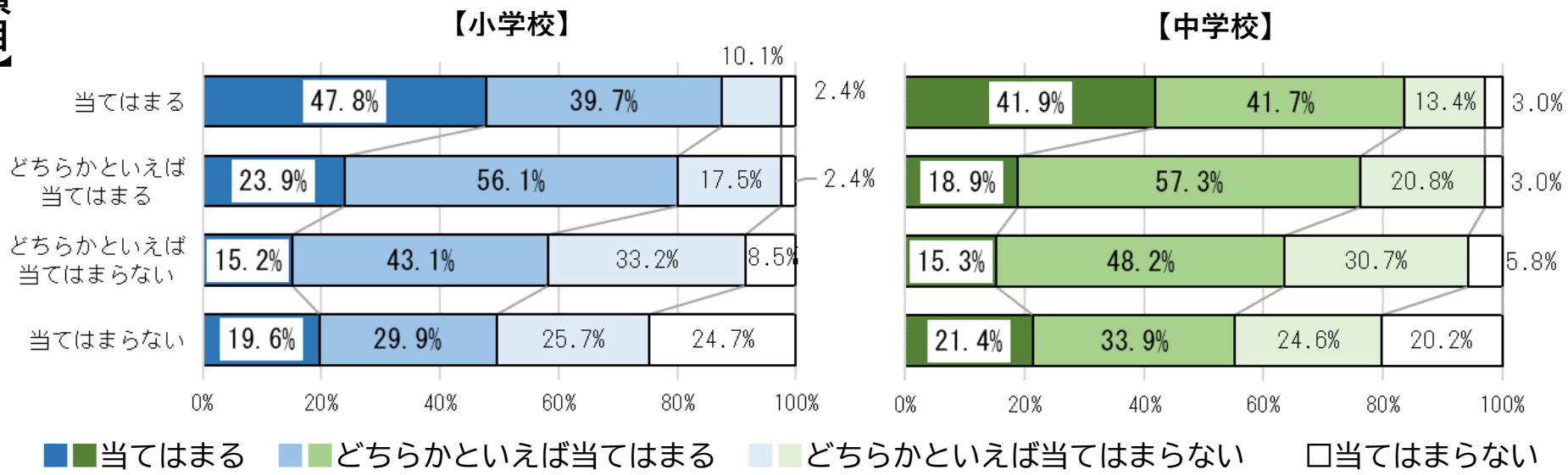


「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」との項目に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、「将来の夢や目標を持っている」との項目に肯定的回答をしています。

分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる

【縦項目】
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている

【横項目】
ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

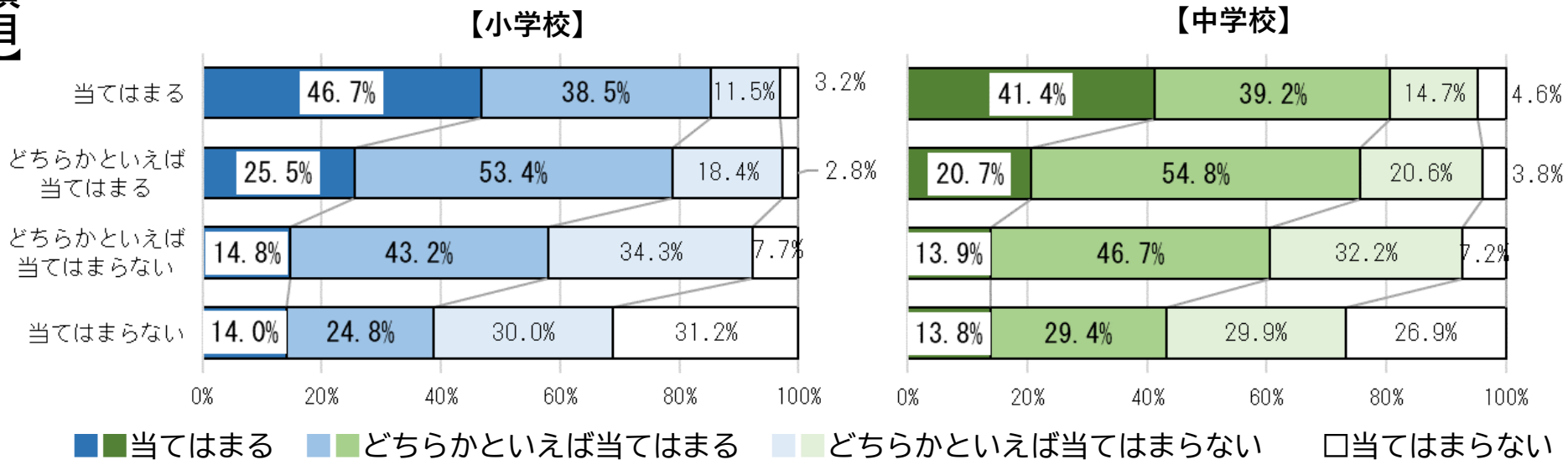


「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」との項目に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、「ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」との項目に肯定的回答をしています。

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む

【縦項目】
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

【横項目】
ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

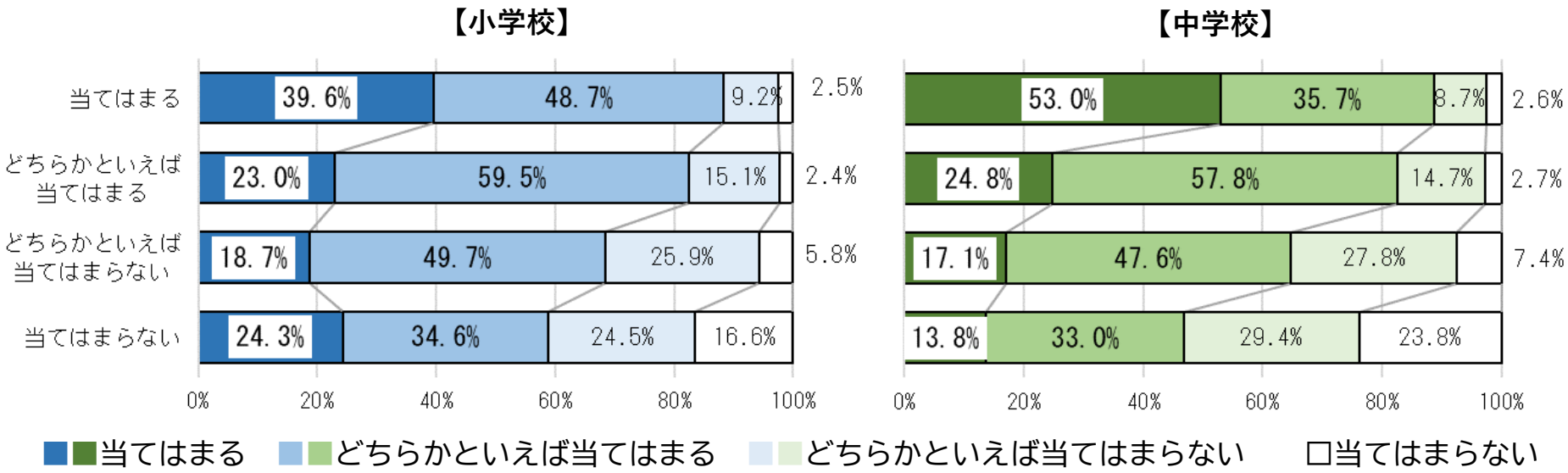


「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」との項目に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」との項目に肯定的回答をしています。

ICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進める

【縦項目】
ＩＣＴ機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

【横項目】
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う

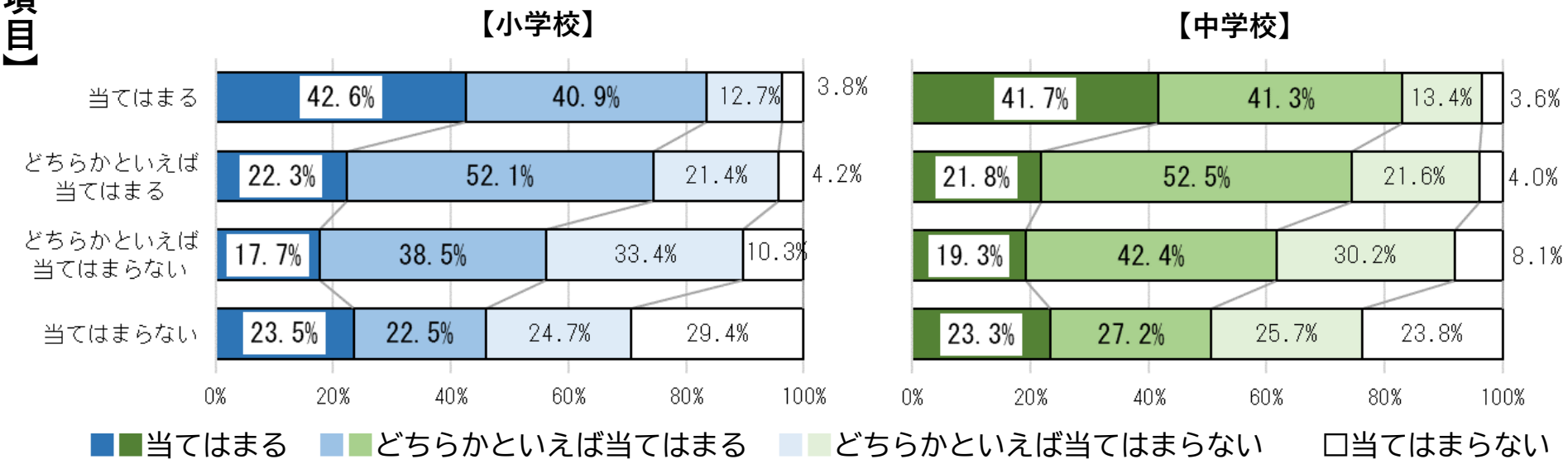


「ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」との項目に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」との項目に肯定的回答をしています。

ICT機器を活用し、考えを共有したり比べたりする

【縦項目】
ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

【横項目】
自分と違う意見について考えるのは楽しい



「ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」との項目に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」との項目に肯定的回答をしています。

事例一覧　小学校　国語

言葉による「見方・考え方」とは

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

部分と全体、具体と抽象を行き来する読解を繰り返すとともに、条件に合わせた発言・記述の機会を確保する。

授業をこう工夫する！

文章の構成や話し合いの展開を捉え、その中の一つ一つの言葉や文に立ち止まることで、文脈における言葉の意味、表現の意図や効果について考え、対話の中で吟味できる授業を構築する。

- １年「うみのかくれんぼ」
- １年「じどう車くらべ」
- １・２年「お手紙」
- １・２年「学びに向かう力、人間性」
- ３年「はりねずみと金貨」
- ３年「仕事のくふう、見つけたよ」
- ４年「アップとルーズで伝える」
- ５年「大造じいさんとガン」
- ５年「『子ども未来科』で何をする」
- ６年「やまなし」
- ６年「『鳥獣戯画』を読む」
- 全学年「書くこと、話すこと、聞くこと」
- 全学年「読むこと」

事例一覧　小学校　算数

「数学的な見方・考え方」とは

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

身の回りにある事象や具体物を提示し、全員で場面理解し課題解決の見通しを共有させてから数学的活動を通した授業展開を行う。

授業をこう工夫する！

- ３年「三角形」５年「多角形」
- ４年「変わり方」
- ５年「比例」
- ５年「面積」①
- ５年「面積」②
- ５年「体積」
- ５年「速さ」
- ６年「比例と反比例」
- ６年「資料の調べ方」①
- ６年「資料の調べ方」②
- ６年「資料の調べ方」③

事例一覧　小学校　理科

「理科の見方・考え方」とは

見　方　問題解決の過程において、自然の事物・現象をどのような視点で捉えるかということ。
自然の事物・現象について、
「エネルギー」を柱とする領域では、主として量的・関係的な視点で捉えること
「粒子」を柱とする領域では、主として質的・実体的な視点で捉えること
「生命」を柱とする領域では、主として共通性・多様性の視点で捉えること
「地球」を柱とする領域では、主として時間的・空間的な視点で捉えること
ただし、これらの特徴的な視点はそれぞれ領域固有のものではなく、その強弱はあるものの、他の領域においても用いられる視点であることや、これら以外にも、理科だけでなく様々な場面で用いられる原因と結果をはじめとして、部分と全体、定性と定量などといった視点もあることに留意する必要がある。

考え方　問題解決の過程において、どのような考え方で思考していくかということ。
児童が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなど。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

４つの領域で働かせる見方や領域共通で働かせる見方とともに、考え方（比較・関係付け・条件制御・多面的）を意識して指導し、深い学びにつなげていくことが大切です。

授業をこう工夫する！

- ３年「風とゴムの力のはたらき」
- ４年「ものの温度と体積」
- ４年「天気と１日の気温」
- ５年「ふりこのきまり」

事例一覧　中学校　国語

言葉による「見方・考え方」とは

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

生徒が「見方・考え方」を働かせるためには

学習目標を明確にすることで、目的意識や相手意識のある活動につなげることが大切です。

授業をこう工夫する！

- １年「根拠を示して説明しよう」
- １年「聞き上手になろう」
- １年「聞き上手になろう」
- ２年「依頼状やお礼状を書こう」
- ２年「段落に見出しを付けよう」
- ２年「月夜の浜辺」
- ２年「古典新聞を作ろう」
- ２年「考えを比べながら聞こう」
- ２年「人物を描写しよう」
- ３年「俳句の世界」
- ３年「人工知能との未来」等

事例一覧　中学校　数学

「数学的な見方・考え方」とは

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

生徒が「見方・考え方」を働かせるためには

本時で働かせたい見方・考え方を明確にして、生徒が自覚できるよう価値付けることが大切です。

授業をこう工夫する！

- １年「比例と反比例」
- １年「比例と反比例」
- １年「比例と反比例」
- １年「比例と反比例」
- １年「比例と反比例」
- １年「比例と反比例」等
- ２年「式の計算」
- ２年「箱ひげ図とデータの活用」①
- ２年「箱ひげ図とデータの活用」②
- ２年「箱ひげ図とデータの活用」③
- ２年「箱ひげ図とデータの活用」④
- ２年「箱ひげ図とデータの活用」⑤
- ２年「図形の調べ方」
- ２年「図形の調べ方」
- ２年「図形の調べ方」

事例一覧　中学校　理科

「理科の見方・考え方」とは

見　方　理科を構成する領域ごとの特徴を見いだすことが可能であり、
「エネルギー」を柱とする領域では、自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉えること
「粒子」を柱とする領域では、自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉えること
「生命」を柱とする領域では、生命に関する自然の事物・現象を主として共通性・多様性の視点で捉えること
「地球」を柱とする領域では、地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉えることと、それぞれの領域における特徴的な視点として整理することができる。
ただし、これらの特徴的な視点はそれぞれの領域固有のものではなく、その強弱はあるものの他の領域において用いられる視点でもあり、また、これら以外の視点もあることについて留意することが必要である。また、探究の過程において、これらの視点を必要に応じて組み合わせて用いることも大切である。

考え方　探究の過程を通した学習活動の中で、例えば、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。

生徒が「見方・考え方」を働かせるためには

実験の計画を検討して改善する学習活動の設定が大切です。

授業をこう工夫する！

- １年「レンズのはたらき」
- ２年「化学変化と熱の出入り」
- ２年「化学変化と熱の出入り」
- ２年「日本の四季の天気」
- ３年「エネルギー」

事例一覧　中学校　英語

「英語の見方・考え方」とは

外国語やその背景にある文化を社会や世界、他者との関わりに着目し、相手に十分配慮しながら、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、コミュニケーションを図ること。

生徒が「見方・考え方」を働かせるためには

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理したり、既習の知識を関連付け自身の考えを形成する場面や、課題を見出して解決策を考える場面を通して、見方・考え方を働かせる資質・能力を養うこと。

授業をこう工夫する！

- ３年「まとまった英文を書こう」
- ３年「まとまった英文を書こう」
- 全学年「ビデオレターで学校を紹介しよう」
- 全学年「英語すごろく」
- 全学年「文章全体の概要をつかんで書こう」
- 全学年「英語で質問しよう」
- 全学年「トレーニング」

指導資料

学びのデジタルガイドプラス

学びのデジタルガイドの実践事例にちりばめた、子ども向けコーナー（デジタルガイドプラス）をまとめた形で提供しています。

ここには、実際に体験する活動や実社会で生かされているというお話など、生きた学びへつなげる工夫が詰まっています。

子ども達が気軽に取り組み、スムーズに学習内容の理解へつなげ、達成感を味わいながら、学習意欲の向上へつなげようとするものです。

ぜひ、日々の授業にプラスして提供してみてください。

既にある資料は『学びの宝庫』です！ぜひ活用を！

兵庫県教育委員会義務教育課

これまで、兵庫県では「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について解説を行い、学校現場では様々な創意工夫が図られてきました。

平成２９年度
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導体制

平成３０年度
～児童生徒の課題に応じた授業改善の工夫と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の充実～

令和元年度
～確かな学力を育む授業づくり・指導体制の充実～

令和２年度
～「学びに向かう力」の育成に向けた授業づくり～

令和３年度
「学びに向かう力」の育成に向けた授業づくり～家庭や地域と連携した生活習慣や学習習慣の確立に向けて～

他にもこんな資料があります

兵庫県教育委員会義務教育課

「自分の考えをもち、表現する子をめざして～国語科における『活用・表現力』の育成に向けた指導方法の研究～」

きめ細かな見取りから確かな学力を育む授業改善へ

『活用・表現力』を高めるための授業改善リーフレット

子どもの「わかった」を大切にした授業改善のポイント

ひょうごつまずきポイント指導事例集小学校国語

ひょうごつまずきポイント指導事例集小学校算数

ひょうごつまずきポイント指導事例集中学校国語

ひょうごつまずきポイント指導事例集中学校数学